

平成 16 年 11 月 3 日

## 池袋みち新生社会実験始まる

### ～池袋にオープンカフェ出現、アートな秋の休日を楽しむ～

本日 11 月 3 日（水）、池袋のグリーン大通りを中心に「池袋みち新生社会実験」がスタートした。池袋東口のグリーン大通りとサンシャイン通りの歩道に、パラソル付きのテーブルやいすが置かれ、池袋を訪れた人々が思いおもいにくつろぐ。道にはオブジェ、また、地元豊島区吹奏楽団や東京音楽大学の学生による演奏もあり、文化の日にあふさわしく、まちを訪れた人々は読書や音楽を楽しみながら、ゆっくりと秋の休日を満喫した。

日時：11月3日（祝）、5日（金）、6日（土） 午前11時～午後8時

実験実施地域：グリーン大通り（延長約300メートル）歩道

サンシャイン通り（延長約50メートル）歩道

社会実験の構成：①オープンカフェ

②路上アート

③イベント（音楽演奏会等）

主催：新しい文化の扉を開く「池袋みち新生」社会実験推進協議会

協力：豊島区

この社会実験は、国土交通省の「オープンカフェ等地域主体の道路活用に関する社会実験」に池袋地区が選定されたことにより実施されたもの。道路空間をより柔軟に活用するなど、街のにぎわいの創出などの観点から、「みち」を活用して継続的に行う地域活動の円滑化を図るために実施される。

池袋東口エリアは、池袋駅とサンシャインシティ間の往来が中心であり、歩行者の回遊性に乏しいと言われている。そこで、池袋東口エリアの沿道商業施設と一体となった魅力的な道路空間と回遊ネットワーク形成を目指すため、幅員の広い歩道部でのオープンカフェ等を試行し、それらの有効性や課題について検証していく。

本日3日は、グリーン大通りで午前11時を皮切りに、計7回の音楽演奏会が行われた。

相模原市から自転車ではるばる池袋まで来たという男性は、「前に池袋に来たときと、感じが違うので、びっくり。椅子やテーブルもくつろげるし、明るくていい感じですね」。また、勤務先が池袋という2人の女性は、「イベントがあるというので、来てみた。普段のイメージと違って、いい雰囲気だと思う」と語ってくれた。

普段は人通りの少ないグリーン大通りだが、新しい「みちづかい」で多くの人が足を止めていた。今回の社会実験が文化都市池袋発展の起爆剤となることを大いに期待したい。

**詳細：池袋オープンカフェ社会実験推進協議会**

平成 16 年 10 月 8 日

## オープンカフェ in 池袋によろこそ

### ～「池袋みち新生社会実験」に向け協議会発足～

国土交通省の「オープンカフェ等地域主体の道路活用に関する社会実験」に池袋地区が選定され、11月の実施に向けて本日10月8日（金）「新しい文化の扉を開く『池袋みち新生』社会実験推進協議会」が発足し、初会合が開かれた。

#### ＜池袋みち新生社会実験＞（別紙イメージ図）

実験実施地域：グリーン大通り（延長約300メートル）歩道

サンシャイン通り（延長約50メートル）歩道

オープンカフェ等社会実験実施期間：11月3日（水）～6日（土）午前11時～午後8時

社会実験の構成：①オープンカフェ

②路上アート

③イベント（音楽演奏会等）

「オープンカフェ等地域主体の道路活用に関する社会実験」は、国土交通省の今年度重点施策として、道路空間をより柔軟に活用するなど、街のにぎわいの創出などの観点から、「みち」を活用して継続的に行う地域活動の円滑化を図るために実施されるもの。

交通の要として、池袋駅には270万人の乗降客があり、商業、娯楽、文化、業務など多様な機能をもった都市として発展してきたが、近年、都内の他地域で再開発が進む中で、都市としての魅力の相対的な低下が危惧されている。特に池袋東口エリアは、池袋駅とサンシャインシティ間の往来が中心であり、歩行者の回遊性に乏しく、さらに放置自転車が多いなど、都市の魅力や都市景観に大きな課題を抱えている。

これらの課題を解決し、池袋東口エリアの沿道商業施設と一体となった魅力的な道路空間と回遊ネットワーク形成を目指すため、幅員の広い歩道部でのオープンカフェ、路上アート、音楽演奏会等のイベント等を試行し、それらの有効性や課題について検証する。この社会実験は、NPO法人アーバンクリエイト、池袋の路面電車とまちづくりの会、(財)豊島区街づくり公社が主体となり、豊島区の協力のもとに実施される。

本日8日（木）午後4時から、社会実験の舞台となるグリーン大通りにある巣鴨信用金庫東池袋支店会議室で「新しい文化の扉を開く『池袋みち新生』社会実験推進協議会」の設立発足式が行われた。

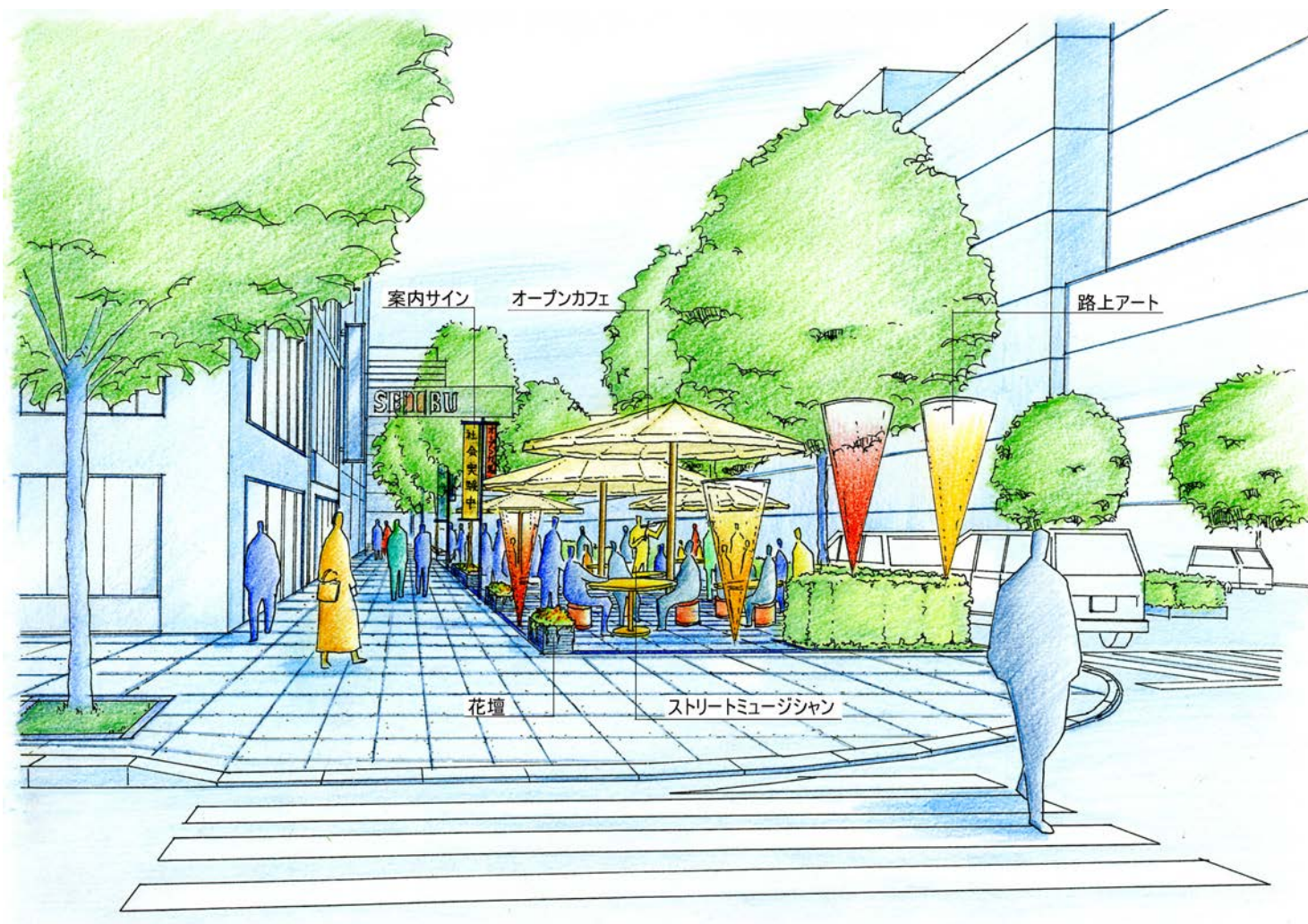
まず、推進協議会の会長に就任した立教大学経済学部教授の小松善雄氏が、「オープンカフェは、ヨーロッパでは常識。ぜひ、この池袋で実現させましょう」とあいさつ。出席した国土交通省の吉田雅文課長は、「今年も自由が丘など他の地域でも社会実験は行われるが、具体的に地元で協議会が出来たのは初めて。地元の皆さんの熱意でどのようなまちづくりがされていくのか、参考にさせていただきたい」と語った。参加した地元関係者からは、「これをきっかけに、ぜひ池袋全体のイメージアップを」「池袋を魅力ある空間とするための第一ステップとしたい」など、積極的な意見が相次いだ。

豊島区では、「都市再生」を区政の大きな柱とし、池袋を文化発信のユニバーサルデザイン都市とするため、サンシャインシティに隣接する東池袋地区の再開発、区内で5つ目の大学となる帝京平成大学への学校跡地の売却、池袋駅からサンシャインシティ方面へのLRT（超低床路面電車）導入構想、新東京タワーの誘致など、新しい試みが目白押しである。今回の社会実験が文化都市池袋発展の起爆剤となることが大いに期待される。

\* イメージ図はメールでお送りします。

**詳細：(財) 豊島区街づくり公社**

## ■社会実験イメージ



全体イメージスケッチ